

聴覚障害学生にとってのオンライン授業とは

2021.9 発行

オンライン授業が全国的に導入され、わかりやすく効果的なオンライン授業のあり方について、各方面で研究や実践が重ねられています。一方、聴覚障害学生にとって、オンライン授業に参加する際の困難とはどのようなものでしょうか。主に以下のような事柄が挙げられています。

- ・見なければならない情報が多すぎて（スライド資料、先生の映像、他の学生の映像、教科書、質疑等のチャット、情報保障の画面など）、授業についていけなくなってしまう。
- ・90分ずっと画面上の情報を追いつけるため、目の疲れがひどい。
- ・パソコンを通してきこえてくる音声は、声がこもっていたりノイズが多いこともあり、対面授業の時よりも聞き取りづらくなってしまう。
- ・ちょっとしたことを先生や周りの学生に聞いて確認したいと思っても、対面授業と違って周囲の様子がわからず、タイミングも取りづらいので難しい。

このように、目で見てわかる資料や情報を増やしていただけることは大きな助けになる一方、リアルタイム授業の限られた時間内にすべての情報を追うことには困難さも生じます。また、チャットやメールなどのコミュニケーションツールが使えるとは言っても、効果的に使いこなすためには、使いやすい環境や周囲の人との関係性づくりが欠かせません。周りの助けが得にくい状況の中で、授業に参加することには大きな負担を伴います。



こうした難しさをできるだけ解消するための、オンライン授業づくりのポイントとして、次のようなことが挙げられます。

1. 音声聞き取りやすくなる工夫

授業時はヘッドセットやピンマイクなどを使い、できるだけ明瞭に話すことで聞き取りやすさが向上します。

参考：「オンデマンド授業の収録・オンライン授業の工夫（音声編）」

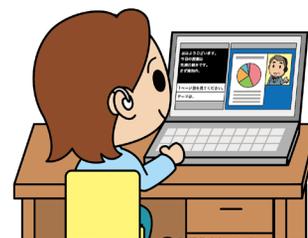


©PEPNet-Japan

2. 視覚的な情報が見やすくなる工夫

視線の移動ができるだけ少なく情報が得られるよう資料提示の方法を工夫したり、今どこを見ればよいか、どこの説明をしているのか明示しながら授業を進めることが、授業理解の助けになります。

参考：「Zoomのバーチャル背景にプレゼンテーションを提示」



©PEPNet-Japan

3. 障害学生支援担当部署と教員との連携

聴覚障害学生への支援のノウハウや各学生の状況については、障害学生支援室など学内の支援担当部署で情報を集約している大学も多いと思います。音声取得のためのマイクを各教員に貸し出したり、授業映像への字幕挿入を協力して行うなど、支援担当部署を中心に教職員へのサポートを展開している例もあります。このように、授業方法や配慮の方法については、支援担当部署にも相談をするなど、連携しながら対応できるとより効果的です。

最後に、聴覚障害学生は、授業時に困ったことがあったり困難を感じることもあっても、その状況を的確に表現して支援を求めることがなかなかできなかったり、誰に相談すればよいかわからず抱えてしまうこともしばしばあります。何か配慮や工夫をした後に、学生にどうだったか尋ねてフィードバックを得たり、教職員のほうからこまめに声をかけて困りごとがないか引き出すなど、丁寧なコミュニケーションを取ることが重要です。